

大津町立大津小学校 研究だより



第9号
平成29年6月1日
大津小学校研究部
文責 志賀 裕美

5月17日（水）に本年度初めての授業研究会を実施しました。併せて、授業後に研究会と研究開発運営指導委員会（外部の有識者による研究開発のための会議）も実施しました。

今回の授業は、6年生の「リレーの作戦を立てよう」でした。事前に測って見たリレーのタイムをもっと短くしたいという意欲が子どもたちに高まったところから学習が始まりました。「バトンパスをうまくする」「リレーの順番を変える」「バトンを渡す場所を考える」など、様々な意見が出た中で、単純に順番を入れ替えるだけでは、タイムが変わらないということに気付いた子どもたちが、バトンを渡すゾーンを利用して距離を変えることで、タイムは短くなるのかどうか調べました。



自分なりの考えを図や式で表そうとしています。

どう考えたらいいのか困ったら、班の友だちに相談しています。



本当はチーム17人だけれど、まずは、4人のタイムで、どんな調整をしたらいいのか、考えました。10メートルごとのタイムの増減で考えたり、1メートルごとのタイムから考えたり、小数倍で考えたりと様々な考えが出ました。タイムはどの計算でも短くなったものの、他のクラスの作戦では、もっとタイムが短くて、そこにはどんな秘密があるのかと、黒板を食い入るように見る子どもたちの姿が印象的でした。

この後の子どもたちの学びは、距離の調整の仕方と調整する前との違いから深まっていきます。運動会を1つのゴールとして実際に確かめられることが、生活数理の魅力でもあります。

どの学年もこれから実践していきますが、学校全体として子どもたちの目の輝きがある授業をめざして取り組んでいきます。

子どもたちは、テークオーバーゾーン（バトンの受け渡し可能範囲：最大40M）を利用した調整をするため、走る長さを調整して考えていました。

- ① 得意な人に多く走ってもらう。（120M）
- ② 一番短く走っても80M、他にも90M、110M走ることもある。

最終的な発見として、調整の仕方によっては、タイムがさらに縮まることもあることから、子どもたちの思考は、「距離とタイムの関係に秘密がありそう」「これから考えたいことがわかった」と変化していきました。